

図書館と県民のつどい埼玉 2015報告

2015年12月13日(日)にさいたま市民会館うらわで、「図書館と県民のつどい埼玉 2015」が開催されました。午前は作家の荻原浩さんの記念講演、午後はこども読書活動交流集会のほか、ビブリオバトルや展示コーナーなど、終日大勢の方でにぎわいました。
(詳しい内容は、埼玉県図書館協会のウェブサイト「図書館と県民のつどい埼玉 2015 記録」をご覧ください。)

こども読書活動交流集会 報告と交流「広がる学校図書館の可能性—これまでとこれから—」

学校司書法制化を受けて関心が高まっている学校図書館や学校司書。東京都稲城市の学校司書、福家先生や、所沢市立椿峰小学校の高野校長先生をお呼びし、学校司書配置に向けた活動や学校司書に期待する役割など、それぞれの立場から様々なお話しをいただきました。参加者の皆さんの意見・情報交換の場として盛り上がりしました。

学校司書配置への道 (福家先生)

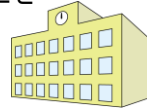
お子さんの通う学校図書館での読み聞かせボランティアからスタートし、ボランティア活動をされる中で、司書教諭、司書の資格を取得。仲間と「稲城市の図書館サポーター みんなのとしょかん」を発足し、学校図書館の充実を訴える活動をされました。

ポイントは、学校図書館活性化検討会等の学校図書館に直接的な委員会だけでなく、市の長期総合計画審議会等の市民公募枠へ応募し、委員となったこと。そのような場での発言は記録に残るといふことがあります。また、一般の方の意見や要望書が多く提出されたことも後々の力になったそうです。

活動で大切なことは、行政のシステムを理解し、ポジティブで具体的な提案をすること。また、学校、教育委員会、市長、保護者、ボランティア等々それぞれの立場で協力することだそうです。

校長として学校司書に期待する役割 (高野先生)

- ①授業でのT・T (チーム・ティーチング)
- ②授業に必要な資料や情報の提供
- ③ボランティアの方と学校図書館とのコーディネート
- ④蔵書の傾向を把握し、購入計画を立案すること
- ⑤他の学校図書館を訪問して情報を得ること
- ⑥教職員との連携強化を図ること



越谷市の学校司書の青山先生、参加者の方からも報告いただきました。講師の先生それぞれから「つながり」が大切というお話をいただき、分科会終了後も会場の各所で参加者のみなさんの交流が続いていました。



埼玉県立図書館からのお知らせ

☆読み聞かせ・ストーリーテリング☆

はじめての研修会やってみませんか?

【読み聞かせボランティア団体のための講師派遣】

- 対象■ 小中学校や幼稚園・地域で活動するボランティア団体
- 内容■ 初心者向け講座(2時間程度)。絵本の持ち方、本の選び方、覚え方、語り方など。
- 講師■ 県立久喜図書館で養成したおはなしボランティア指導者がやさしくアドバイス!
- 申込み方法・期限■ 開催の1か月前までに、郵送またはメールで申込み
- 問い合わせ■ 0480(21)2659 【kuki-jido@lib.pref.saitama.jp】

編集後記

十人十色のこどもたち。その時、その年齢にぴったり合う本がきっとあるはず! たくさんの中から、一生の友だちとなるような本と出会えますように。(ボランティアO)

編集発行 埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のウェブサイト「子ども読書支援サービス」
<https://www.lib.pref.saitama.jp/> ※バックナンバーはこちら

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5
TEL 0480(21)2659 (代) 彩の国 埼玉県
FAX 0480(21)2791

子ども読書支援情報誌

携帯用QRコード



しえん

Shien 第21号

こどもの読書に関わる大勢の方の活動とネットワークを支援(Shien)するそんな大きな願いをもったやさやかな情報誌です。

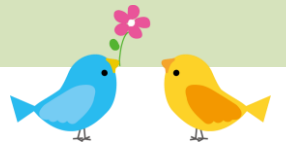
平成28年3月1日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター

《目次》

- どの子ども絵本との出会いを待っている・・・1
- 連載：おはなし・読み聞かせ実践講座⑳・・・1
- 連載：子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介㉑・・・2
- 新聞・雑誌クリッピング担当から・・・2
- ブックリスト担当から・・・3
- インターネットからの情報収集担当から・・・3
- 図書館と県民のつどい埼玉2015報告・・・4
- 読み聞かせボランティア団体のための講師派遣・・・4

どの子ども絵本との出会いを待っている



私は長年都立図書館で児童サービスを担当し、特別支援学校への読書支援にも9年間携わってきました。現在でも機会を頂いて、小学校などに伺ってお話をしています。

先日、3年生の特別支援学級でお話をしました。初めからこどもたちは興味津々で、最初の『おちやのじかんにきたとら』(ジュディス・カー作 晴海耕平訳 童話館出版)では、場面が進むごとにびっくりしたり、笑ったり。内容の面白さだけでなく、友だちといっしょに笑うこと自体を楽しんでいるようでした。読み聞かせの後に、「つぎのお話は絵がありません。みんなの頭の中で絵を描いてね」と言うと、こどもたちはいかにも分かったと言うように真剣な顔をして、「おおかみと七ひきのこやぎ」を聞いてくれました。その後も絵本を楽しんでから、「もう一つお話をしようと思うのだけれど」と言うと、一人の男の子が、「さっき聞いた話はこっちに寄せておく」と言って頭にあるお話を端っこに寄せる仕草をしました。その仕草を通して、私にも、男の子の頭の中のお話が見えました!

こどもたちと絵本やお話を楽しむと、大人の予想を超えた驚きや発見があります。聞き手がどんなこどもたちでも同じです。ただ特別支援学級や学校では、その幅が、本当に広いなあと実感しています。プラス方向でも、またマイナス方向でも。それだけに、良く考えて準備し、当日はこどもたちを観察しながら、一緒に、ゆったりと楽しみたいと思います。

杉山きく子(元東京都立図書館 司書)

おはなし・読み聞かせ実践講座 ㉑

今回は、特別支援学校や特別支援学級での読み聞かせについてお届けします。

どんな本を読んだらいいの?

私たちのグループでは、いつもと変わらず、こどもたちが楽しんでくれる本を読んでいます。リズムカルな音を楽しむ子、ダジャレなどユーモアを喜ぶ子、可愛い絵の好きな子など、それぞれのこどもの好みや興味関心を思いうかべて、本を選んでいます。

不安に思わないで

読み聞かせをしていると、大きな声を出したり、体を動かし続けたり、ちらりと見ただけで外を見ていたりする子がいて、「聞いてくれないのだろうか」「つまらないのだろうか」と不安に思うかもしれません。しかし、それらは障がいからくる行動であって、そのような時にも、お話を楽しんでいることが多いのです。回を重ねると、ふとした表情や態度の変化からおはなしに興味を持っていてくれるとわかります。障がいから出てしまう行動を気にせず、次回の読み聞かせにつなげていってください。

回数を重ねていくこと

こどもたちの中には初対面の人、慣れない人に対して強い緊張が続く子が多くいます。2回、3回と回を重ねて、自分たちを『楽しい本を読んでもくれる人』と思ってもらい、リラックスしておはなしを聞けるようにしてください。リラックスしているときのこどもたちの感受性や理解力には、きっと驚かれることでしょう。

菊地裕美(久喜市立太田小「わかば」図書ボランティア)

【反応が良かった本】

参加型の 本	ぶたためきつねねこ	馬場のぼる著	こぐま社
	まるまるまるのほん	エルヴェ・テレル作 谷川俊太郎訳	ポプラ社
	あーとってよあー	小野寺悦子文 堀川理万子絵	福音館書店
短めのお話	なつのおとずれ	かがくいひろし作・絵	PHP研究所
	オムライス ハイ!	武田美穂作	ほるぷ出版
	バスでおでかけ(大型)	間瀬なおかた作・絵	小学館
長めのお話	まてまてタクシー	西村敏雄作	福音館書店
	へんてこもりにいこうよ	たかどのほうこ作・絵	偕成社
	ぼくびょうきじゃないよ	角野栄子作 垂石真子絵	福音館書店
昔話	おおきなかぶ	A. トルストイ再話 内田莉紗子訳 佐藤忠良画	福音館書店
	三びきのやぎの がらがらどん	マン・ブロン作 せたとていじ訳	福音館書店
	3びきのくま	トルストイ文/バネツォフ絵 小笠原豊樹訳	福音館書店
写真	タテゴトアザラシのおやこ	福田幸広写真 結城モイラ文	ポプラ社
	こいぬがうまれるよ	ジオナ・コル文 ジエロム・ケクス写真 つばいいくみ訳	福音館書店
	ぼくのおじいちゃんのがお	天野祐吉文 沼田早苗写真	福音館書店

読書ボランティア連絡会

子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介①

5年前に「草加市ふるさとまちづくり応援基金」の制度を利用して、8名の仲間が呼びかけ人となり立ち上げたのが「読書ボランティア連絡会」です。草加市では市内の全小学校で保護者や地域の方など、市民ボランティアによる読みきかせが行われており、その輪は、保育園や児童館、病院、老人施設などにも広がっています。そういった活動の中で「他のグループはどんなふう読みきかせをしているのかしら。情報交換したいね」という声があがるようになり、私も自分の読書運動の経験から、ボランティアの交流とスキルアップが必要と考えたのが会設立のきっかけです。

連絡会では、毎月定例会を開いて、本を持ち寄って読み合ったり、会員が講師になった学習会を行っています。他にも、基金から助成を受け、これまで様々な講座を開催してきました。「良い本の選び方、読みきかせの仕方、声の出し方、読書ボランティアの心得」など多様なテーマで、色々な方を講師にお呼びして勉強をしたり、内田麟太郎さんやアーサー・ビナードさんを招いて作品に寄せる思いを学んだり。子どもたちへは、アニメーション(注)や科学遊び教室を開きました。

基金による助成は昨年度で終了。今年度からは自立して活動を行っています。良い本を選ぶ目を養い、読みきかせの方法を学び、仲間のつながりで活動の輪を広げたい。子どもたちには地域の大人との交流を通して豊かな子ども時代を過ごして欲しい。『たくさんの人に見守られて成長できる』そんな子ども時代を保障してあげたいと思います。

活動は実を結び、読みきかせを届けることで、子どもと大人が自然に声を掛け合えるようになり、保護者の皆さんともつながるようになってきています。青柳 智江(読書ボランティア連絡会)

(注)スペインで開発された、読書指導の手法



Nice to meet you!
子ども読書支援ボランティアです。

埼玉県立図書館のホームページ
<https://www.lib.pref.saitama.jp/>
「子ども読書支援サービス」のページ



埼玉県のマスコットコバタン

きいぬき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

今回は、「家族で本の世界を楽しむ」記事をご紹介します。

まず最初に、三芳町立図書館長 代田知子さんが書いたコラムを紹介します。

筆者は、図書館で出会ったある女の子とのエピソードや、学校へ講師として出向いた際のエピソードなどを通して、親たちに大人も夢中になれる、優れた子どもの本があるということも知ってほしい、子どもと本を読み合ってほしい、との願いを語っています。

「優れた本 親子で読み合って」(朝日新聞 2015.12.15 朝刊 28面)

「日本一の読書のまち」を掲げる三郷市ではユニークな取り組みが行われています。

読んで面白かったり、感動したりした本について家族に伝えたいことを文章や絵で表現する「家読うびん」。その作品を募集し、優秀賞や特別賞を選ぶ「家読うびんコンクール」は2011年度に始まりました。応募作品は年々増え、2014年度は約1万2千点が寄せられたそうです。「家族に本の感想 文や絵で伝えて」(朝日新聞 2015.10.23 朝刊 29面)

学校での読書はもちろん、うちに帰れば親子で「家読(うちどく)」、休日には「子ども司書」が幼児を相手に読み聞かせを行うなど、様々な取り組みを行う三郷市。その結果、市内の図書貸出総数は飛躍的な伸びを示しているということです。「読書の街」を後世に(朝日新聞 2015.11.10 朝刊 28面)

家族で本の世界を楽しむために「大人も夢中になれる子どもの本」をお探しの方、ぜひ最寄りの図書館の司書にお声かけください。読書が好きな人、読書の習慣のある人が増えることを願っています。

仁昌寺(子ども読書支援ボランティア)

記事の原本は県立久喜図書館の子ども図書室で見られます！子ども読書関連新聞記事はウェブサイトに掲載中！

使えるブックリスト

ブックリスト担当から



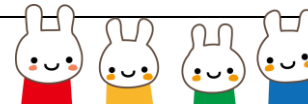
学年別の「季節ごとのおすすめ読み聞かせリスト」

今回は小学校低学年と中学年向けの春のリストを選書しました。リストには、それぞれ14冊、15冊の追加です！

新学期に楽しい15分のプログラムをご紹介します。

低学年

- ①(詩)はなのたいそう
(詩)こうきしん
(詩)たたん・ぴよん
 - ②『これはおひさま』(谷川俊太郎文/大橋歩絵/復刊ドットコム)
 - ③『よしおくんがぎゅうにゅうをこぼしてしまったおはなし』(及川賢治作・絵/竹内繭子作・絵/岩崎書店)
- 『これはおひさま』は子どもたちに参加してもらいましょう！



また、季節ごとのリストには入れられなかった

『もりのてがみ』(片山令子作/片山健絵/福音館書店)も冬の終わりの低学年におすすめです！

全リストはココから [web トップブックリスト](#) 大塚(子ども読書支援ボランティア)

中学年

- ①『あしたのてんきははれ?くもり?あめ?』(野坂勇作/根本順吉監修/福音館書店)
- ②『パンのかけらとちいさなあくま』(内田莉紗子再話/堀内誠一画/福音館書店)

科学本と昔話は相性抜群です！

インターネットからの情報収集担当から

知っ得情報!

** おすすめウェブサイトの紹介 **

今回は特別支援学校や特別支援学級の子どもたちへの読書支援に関するものを紹介します。

☑ 特別支援学校での読み聞かせ 都立多摩図書館の実践から (東京都立図書館)

<http://www.library.metro.tokyo.jp/>

特別支援学校及び特別支援学級のある小中学校での読み聞かせを支援するためのガイドブック。絵本の紹介、アドバイス、プログラム例などが載っています。

サイト内の「学校の読書支援のページ」に掲載されていて、「児童・青少年資料サービス」などからアクセスできます。

☑ 学校図書館&公立図書館連携マニュアル (千葉県教育庁教育振興部生涯学習課)

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/manual.html>

「第4章 特別支援学校編」では、特別支援学校の図書館の工夫と読書活動の取り組みについて書かれています。また、「参考資料」4. の93ページには『特別支援学校の生徒に薦める本』が載っています。

☑ 特別支援学校向けブックリスト (鳥取県立図書館)

<http://www.library.pref.tottori.jp/>

「学校図書館支援センター」の「学校・先生のためのお役立ちメニュー」の「学習内容別ブックリスト」の中にあります。テーマ別ブックリストの他、マルチメディア・デージー、布の絵本、児童書大活字本、Lレブック、点字絵本を紹介しています。

埼玉県立図書館ウェブサイトでも「健康・医療情報サービス」の『見て・聴いて・感じる読書コーナー』で久喜図書館にある「印刷された文字が読みにくい方の読書をサポートするコーナー」の解説と資料(デージー、点字・ユニバーサル絵本他)を紹介。また「子ども読書支援サービス」の『資料案内』で大型絵本・大型紙芝居リスト、点字絵本リスト、手作り布絵本リストを紹介しています。是非ご覧ください。大澤(子ども読書支援ボランティア)